

令和5年度 前期 学校評価について

令和5年10月
京都市立七条小学校
校長 新田 淳

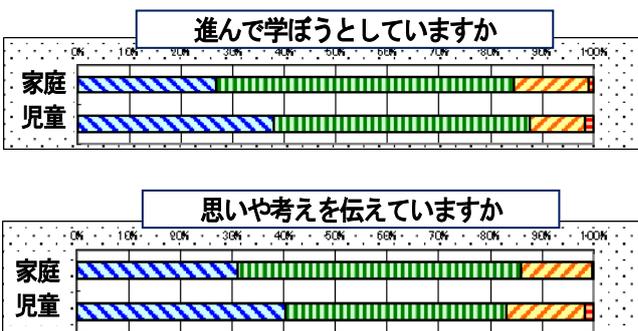
7月に配布いたしました「学校教育アンケート」にご協力いただきありがとうございました。今回は、回答形式を「Forms」による回答に限定いたしました。回答率の低下が懸念されましたが、およそ70%（対児童数）の方々から回答を頂きました。また、今年度より、質問内容を京都市の学校教育の重点や七条小学校の学校経営方針に基づいたものに精選し、児童へのアンケート項目と連動させ、学校、保護者、児童がそれぞれの視点で同じ内容を振り返ることができるようにしました。

※A…できている・分かる・思う等 B…大体できている等 C…あまり～できていない等 D…できていない等 各グラフは左から順にA B C Dの割合の値を表しています。

1. 主体的、対話的で深い学びを目指して

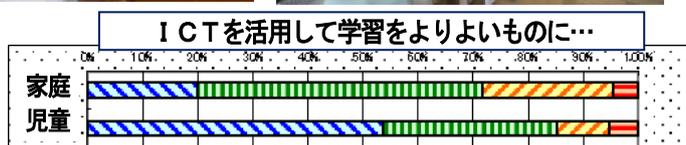
新学習指導要領が全面実施され3年。学校教育における質の高い学びを実現し、子どもたちが学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けるようにすることを目指し、「主体的、対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行ってきました。とりわけ、本校では、言葉による話し合いや振り返り等、言語活動の充実を目指し、子どもたちが思いや考えを分かりやすく豊かに表現したり伝え合ったりすることで学びの充実、活性化、探究心の醸成を図っています。

「興味や関心に応じて、自ら進んで学ぼうとしているか」という問いに関して、児童、保護者とも80%強がA（できている）、B（だいたいできている）と答えました。また、「思いや考えを相手に分かるように伝えているか」という問いに関しても、80%以上の児童がA・B（できている・大体できている）と答えています。コロナ禍では、話し合い活動等の音声言語活動が十分できない状況ではありましたが、今年度は教育活動の中で意図的に“話す”、“聞く”機会を増やし、コミュニケーション力が身につくよう意識して取組を進めています。

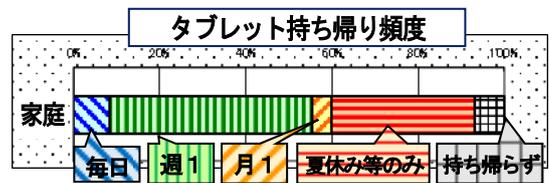


2. GIGAスクール構想におけるICT機器の有効活用

「ICTを活用して学習をよりよいものにしていますか」という設問では、児童と保護者の回答にやや違いが見られました。約85%の児童が肯定的に答えているのに対して、保護者の方の肯定的な回答は、約7割程度となっています。別途質問した「タブレット端末の持ち帰り頻度」についても意見が割れており、「毎日」「週に1回」



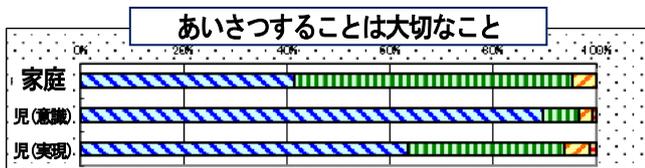
等、高い頻度の持ち帰りがよいという意見が約55%で、逆に「月1」「夏休み等のみ」「持ち帰らない」の合計は約45%となっています。児童1人1台端末を基本としたGIGAスクール構想では、令和4年度からは「充実期」と位置づけ、デジタルならではの強みを生かした学習活動の充実を図っています。学校、家庭がICT分野でも連携を深め、安心して快適なICT環境を整え活用できるように働きかけていきたいと思っています。



2. 「豊かな心」の行動化へ



「豊かな心」の醸成を目指す取組に関しては、子どもたちに「意識度」と「実現度」を尋ねました。いじめや暴力を許さない心、あいさつの必要性、協力し合うことの大切さ、ルールやマナーを守ること、情報モラルへの「意識度」については、[A思う・B大体思う]の割合が



いずれも95%を超えており、高い意識をもっていることがわかります。一方で、できているかどうかを問う“実現度”では、A・Bの割合がやや減少しています。「大切だとわかってはいるけどなかなかできない時がある」というジレンマは我々大人もよくあること

です。できていないことを嘆き叱責するより、行動化できたこと褒め、価値行動として意義付けることが豊かな心を醸成する上で大切なことではないかと思えます。それには、道徳科や特別活動等、授業を通して取組はもちろん、周りの大人の日常の言動も重要です。「身近な大人の言動そのものが教育活動である」「子は大人の姿を映す鏡」と言われるように、普段から子どもたちの見本となる言動を心がけたいです。

3. リスクから身を守るために

コロナ禍に代表されるように、酷暑や犯罪、事件等、前例のない多様な危機が頻出しており、社会の危機管理へ意識も年々高まってきています。学校でも、地震等の自然災害はもちろん、火災時の避難訓練等、安全指導を繰り返しており、また、不審者への対応や事故発生時のマニュアル作り等、子どもたちの「命」を守るべく情報をアップデートしながら検討、改善を繰り返し取組を進めているところです。

子どもたちも、事故やトラブルに巻き込まれかね



ない行動を避けることの大切さについては概ね理解しているようで、高い割合で「Aできている・B大体できている」と回答しています。保護者の方の回答は、A・Bの割合が低くなっていますが、これは、子どもは「できている」と思っている、大人の視点で考えると安心してはいけないと感じておられることが数値として表れており、大人の「子を守りたい」という心境としてごく自然なことだと思います。安心できる環境や避難システムを整えることがもちろん一番大切なのですが、いざと言う時には、臨機応変な対応を心がけることも求められます。危険な場所・状況かどうかをすばやく的確に判断し、危険を回避するための行動、つまり“危険回避行動”をとることができるスキルを身につけさせることが大事になってくるのです。そのためにも、我々大人が、リスクに関しても鋭いアンテナを持ち、正しい知識を確実に子どもたちにも伝えていかなければならないと感じます。



4. その他

教育アンケートとは別に、ミニアンケートとして学校の取組等についていくつかお尋ねしました。今年度から行っている「スクリレ」でのプリント類の配布については、ほとんどの方が肯定的なご意見でした。このような簡易アンケートも、以前は印刷して配布して回収して集計して…という工程が重なりかなりの労力を要しましたが、スクリレやFormsを併用することで、印刷や配布の手間が少なくなり、時間短縮や経費削減にもつながっています。一方で、配布物について教室で説明したり子どもが保護者の方に直接手渡したりする機会が減ったことで、確認しづらいというご意見もありました。クラス替えやチーム担任制についても、様々なご意見を頂戴いたしました。今後の学校の取組への参考とさせていただきます。ご回答、ありがとうございました。



その他の質問や回答については、こちらをご覧ください。

<https://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/files/104500/doc/152289/5065747.pdf>

